

古着購入ゲーム感覚

毎週水曜値下げ待つか待たぬか

毎週水曜日に値下げする中古衣料品店がある。「ゲーム感覚」で買い物ができるという評判を呼び、青森県八戸市に1号店を開いてから、わずか8年で全国約60店のチェーンに育った。どういった店なのか。

盛岡発 チェーン急拡大

価格のフシギ

いちご 7,350円、ぶどう 5,250円、かぼちゃ 4,200円。それぞれの絵札がついた商品の値段は、店内に貼られた「一覧表」でわかる。10段階あり、いちごは安いのは105円、この一覧表は毎週水曜日に貼り替えられる。いちごは毎週5,250円、翌々週は4,200円と、毎週値下がりしていく。

運営会社ドンドンアップ(盛岡市)の岡本昭史社長は「ゲーム感覚で買える物を楽しんでもらう。中古衣料品店の『暗いイメージ』を変えたかった」と話す。

絵札のしくみは、店舗運営の効率化にもつながる。客に繰り返して来てもらうにむき。翌水曜まで待ては安く

ドンドンダウンの値下げのしくみ

いちご	7350円
ぶどう	5250円
かぼちゃ	4200円
...	...
もも	105円



来週水曜日に値下げされるから買おう！

翌週水曜日

もも	7350円
いちご	5250円
ぶどう	4200円
...	...
にんじん	105円



値下げされる前に誰かが買ってしまっても？

翌々週水曜日

にんじん	7350円
もも	5250円
いちご	4200円
...	...



値下げ

(105円で売れなければ海外に輸出)

は、飽きられないよう衣料品を定期的に入れ替える必要がある。売れれば値下げするが、このしくみなら値札を張り替える作業がいらぬ。最安値の105円でも売れなかったものは、東南アジアなどへ輸出される。

買い取りも効率重視だ。一部のブランド品を除いて原則、重さに応じて機械的に買い取り価格を決める。岡本さんが「尊敬する」のはリサイクルの「先輩」、中古本販売大手「ブックオフ」だ。

国内約900店を展開するブックオフは、きれいかつ、

どこかで買い取り価格を決め、元の値段の半額で売るのが原則だ。本に貼るシールの色で店に置いてある期間がひと目でわかり、3カ月残ったり、客の反応が悪かったりすれば105円に落とす。それでも売れなければ古紙に回す。

昔ながらの古本屋のように、希少品を集めて高く売るには、それを見分ける「目利き」を育てる必要がある。一方、大量の商品が常に入れ替わるしくみならば、経験の浅い店員に任せられる。店舗網を一気に広げることまでできるというわけだ。(竹下隆一郎)

今週の値段表

いちご	7,350円
ぶどう	5,250円
かぼちゃ	4,200円
...	...
にんじん	3,150円
...	...
...	2,100円
...	1,575円
...	945円
...	525円
...	315円
...	105円

価格のフシギ 値下がり待つか待たぬか



店。「値段表」は毎週水曜日に貼り替えられる